

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	21人	国語B	21人
② 算数A	21人	算数B	21人
③ 理科	21人		

5 留意事項

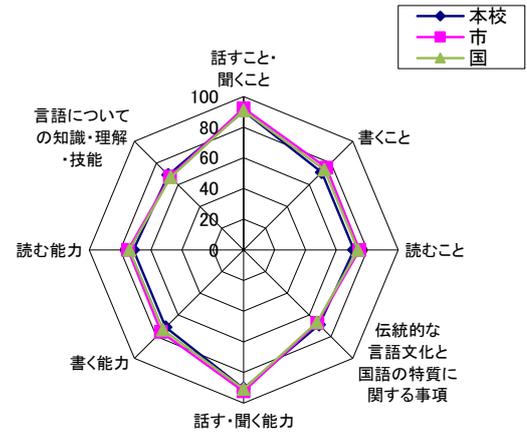
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原北小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

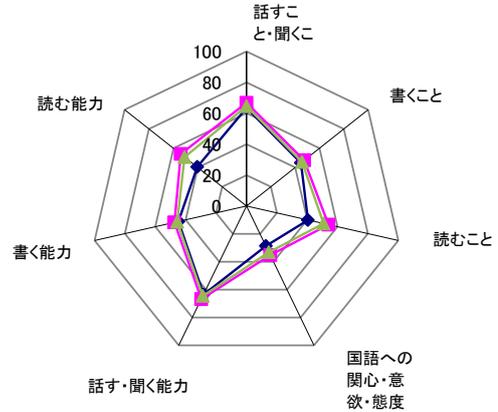
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	90.5	92.4	90.8
	書くこと	71.4	75.7	73.8
	読むこと	71.4	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.0	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	90.5	92.4	90.8
	書く能力	71.4	75.7	73.8
	読む能力	71.4	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	69.0	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	63.5	66.8	64.6
	書くこと	44.8	47.4	45.6
	読むこと	40.5	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	28.6	35.2	33.2
	話す・聞く能力	63.5	66.8	64.6
	書く能力	44.8	47.4	45.6
	読む能力	40.5	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

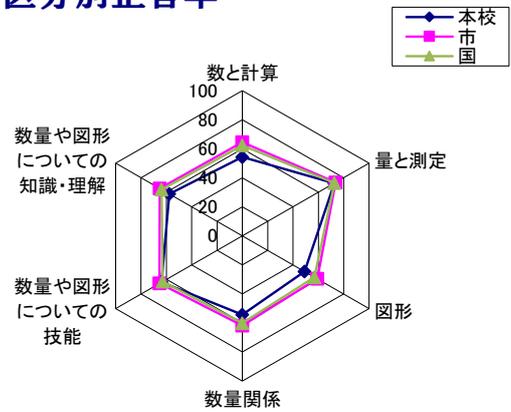
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、国語Aは市の平均を1.9ポイント下回り、国の平均とほぼ同等だが、国語Bは市の平均を3.3ポイント、国の平均を1.1ポイント下回る。</p> <p>○相手や目的に応じ、事例などを挙げて筋道を立てて話すことについては、正答率が90%である。</p> <p>●話し合いにおいて、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることについては、正答率が30%程度であり、市・国を下回る。</p>	<p>・学級会などの話し合い活動を充実させ、相手の意見と自分の意見を比べながら聞いたり、話の展開に沿って自分の考えを述べたりできるよう指導する。</p> <p>・本校の会話科で取り組んでいる、相手意識を大切にしながら実践的コミュニケーション力の育成とも関連させ、話し手の意図を捉えて会話をしたり、質問したりできるよう継続的に指導する。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、国語Aは市の平均を4.3ポイント、県の平均を2.4ポイント下回る。また、国語Bでは市の平均を2.6ポイント、国の平均を0.8ポイント下回る。</p> <p>●目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことについては、正答率が9%である。文章は書けているが、与えられた条件を満たしていない誤答が多い。</p>	<p>・字数、文体などの形式的な条件だけでなく、基となるメモから必要な情報を取捨選択したり、相手の意図を捉えて自分の考えを述べたりするなど、内容的な条件を満たして文章を書く活動を取り入れる。また、100字程度の短作文を書く活動に取り組み、字数を意識して書くことに慣れさせる。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、国語Aは市の平均を3.3ポイント、県の平均を2.6ポイント下回り、国語Bでは市の平均を13.5ポイント、国の平均を10.3ポイント下回る。</p> <p>○物語文では、登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることができていた。</p> <p>●伝記を読んだ人物が書いた感想メモについての設問では、目的に応じて複数の本や文章などを選んで読むことについての正答率が、市・国の平均を15ポイント近く下回っていた。</p>	<p>・読解力を育むために、叙述に即して正確に読んだり、登場人物の心情や筆者の意図を考えながら読んだりする活動を意図的に取り入れる。</p> <p>・伝記や感想文、報告文など様々な目的で書かれた文章や、レポートやレシピ、メモなど様々な形態の文章などにも触れられるよう、読書活動の充実を図る。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を1.5ポイント、国の平均を2ポイント上回っている。</p> <p>○漢字については比較的良好な成果であり、市・国の正答率を上回っているものもある。慣用句についても正答率が100%と、意味や使い方を理解している児童が多かった。</p> <p>●主語と述語の関係に注意して、文を正しく書くことについては、正答率が28%と苦手な傾向にある。</p>	<p>・漢字の学習については、家庭学習等で取りませるなど、継続的に指導する。また、既習の漢字について、確認テストなどを計画的に行い、着実な定着を目指す。</p> <p>・主語や述語、修飾語など、基本的な文法に関わる問題について、学習プリントなどで復習を行うことにより定着を図る。</p>

宇都宮市立清原北小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

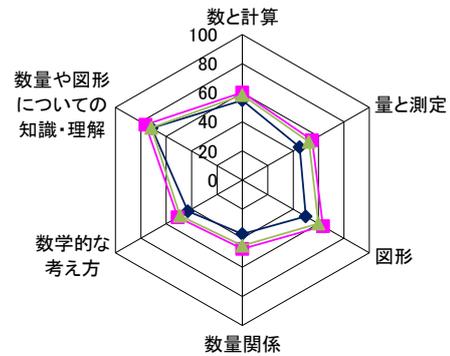
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	54.3	64.5	62.3
	量と測定	72.6	73.6	72.7
	図形	49.2	59.1	56.9
	数量関係	54.3	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	63.8	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	57.7	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	54.8	60.2	58.4
	量と測定	45.2	55.0	52.4
	図形	50.0	63.5	59.9
	数量関係	37.1	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	42.9	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	71.4	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

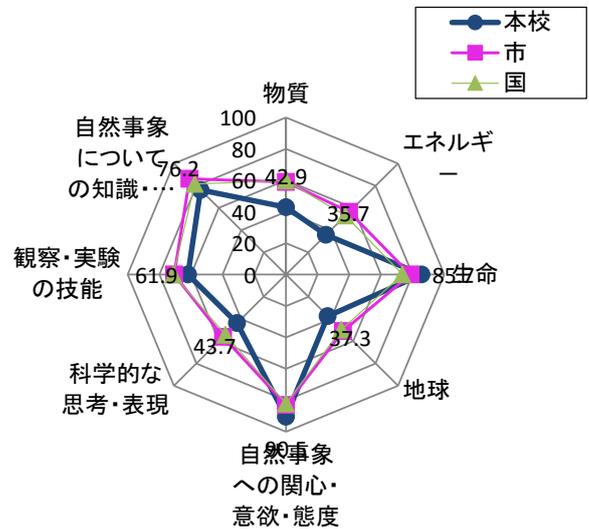
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、算数Aでは市に比べて10.2ポイント、国に比べて8ポイント低い。算数Bでは市に比べて5.4ポイント、国に比べて3.6ポイント低い。</p> <p>○●基本的な小数の除法の意味については理解できているが、1にあたる大きさを除法を使って求める問題では、正答率が市・国の平均に比べ20ポイントほど低い。</p> <p>●示された情報を解釈し、条件に合う数量を答えたり、立式したりする問題の正答率は平均して13ポイントほど市・国より低い。</p>	<p>・与えられた課題についてキーワードとなる言葉や数に気を付けて読み、数直線や図で表すなど、筋道を立てて考えられるようにする。</p> <p>・問題文をよく読み、何を求めればよいかをつかみ、示された条件を図の中に書き込むなど工夫して問題に取り組むようにする。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、算数Aでは市・国の平均とほぼ同じで、算数Bでは市に比べて9.8ポイント、国に比べて7.2ポイント低い。</p> <p>○180°の角の大きさの理解では正答率が100%だった。</p> <p>●180°より大きい角の大きさの理解では、正答率が57%と不十分である。</p>	<p>・180°よりも大きな角は、180°や360°を基に考えることを確認し、補助線を引くなど工夫して正確に角を求められるようにする。</p> <p>・問題文をよく読み、何を問われているのかを正確につかむことができるようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は、算数Aでは市に比べて9.9ポイント、国に比べて7.7ポイント低い。算数Bでは市に比べて13.5ポイント、国に比べて9.9ポイント低い。</p> <p>●円周率の意味についての理解が不十分で、市・国に比べて18ポイントほど低い。</p>	<p>・円周率の意味について既習の学習事項を確認する。</p> <p>・様々な図形の構成要素や性質を確認する。また、それらの特徴や性質を活用して図を描くなど体験的な活動を取り入れていく。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、算数Aでは市に比べて7.5ポイント、国に比べて5.8ポイント低い。算数Bでは市に比べて10.2ポイント、国に比べて8ポイント低い。</p> <p>○百分率を求める問題では、正答率が市・国に比べて14ポイントほど上回った。</p> <p>●グラフなどの情報を関連付けて読み取ることができることを判断する問題では、平均正答率が14.3%と低く、市・国に比べても8ポイントほど低い。</p>	<p>・棒グラフや帯グラフを適切に読み取り判断することができるように、生活の中における使用場面を具体的に設定するなど、意欲的に課題解決に取り組めるように工夫する。</p>

宇都宮市立清原北小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	42.9	59.0	59.8
	エネルギー	35.7	56.4	53.1
	生命	85.7	78.6	73.6
	地球	37.3	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	90.5	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	43.7	56.1	54.1
	観察・実験の技能	61.9	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	76.2	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	<p>平均正答率は市の平均に比べて16.1ポイント、国の平均に比べて16.9ポイント低い。</p> <p>●ろ過をした液体の実験について、結果を分析して考察したり、間違いを正したりする問題の正答率が低い。特に記述の問題では市・国より21.5ポイント低い。</p>	<p>・基本的な実験方法を復習し、正しいやり方のポイントを押さえる。</p> <p>・水に溶けたものの行方や重さについて、3年の「ものと重さ」で学んだ「ものは形が変わっても重さは変わらない」ことなどを復習する。</p>
エネルギー	<p>平均正答率は市の平均に比べて20.7ポイント、国の平均に比べて17.4ポイント低い。</p> <p>●電流の流れ方については、全ての問題においても平均正答率が4割に満たず、全体的に理解度が低い。</p>	<p>・乾電池や光電池の正しいつなぎ方や検流計の読み方を再度確認する。</p> <p>・与えられたもので回路をつなぐのではなく、自分で必要な実験器具や方法を考えて実験を行う時間を設定し、電流の流れについて復習する。</p>
生命	<p>平均正答率は市の平均に比べて7.1ポイント、国の平均に比べて12.1ポイント上回っている。</p> <p>○ほとんどの問題について市・国の正答率を上回っており、特に人体の部位の名称についての問題は95.2ポイントと正答率が高い。</p> <p>●鳥の翼と人の腕のつくりについての問題は国の正答率に比べて4.8ポイント低い。</p>	<p>・鳥の翼と人の腕のつくりについて、骨や関節の数などの相違点を復習する。また、同じところと違うところをまとめることにより、問題に対応した視点で考察をまとめることができるようにする。</p>
地球	<p>平均正答率は市の平均に比べて13.6ポイント、国の平均に比べて12.2ポイント低い。</p> <p>●流れる水の働きについて、水の量を変えるとどうなるかの実験結果とその理由を記述する問題の正答率が19.0ポイントと低い。</p>	<p>・流れる水の働き「浸食、運搬、堆積」の3つを川の様子とともに再度復習し、理解の定着を図る。</p> <p>・記述問題を苦手とする児童が多いので、実験を行う際、その目的と実験方法、考察を個人やグループで考える時間を設けることにより、思考力を養う。</p>

宇都宮市立清原北小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の肯定回答が高く、規則正しい生活習慣を心掛けている児童が多い。健康・食育指導「スクスク」などを活用して、引き続き基本的な生活習慣への関心を高める指導をしていく。

○「5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか」という問いに対しては、肯定割合が非常に高い。「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」「地域や社会をよくするたために何をすべきかを考えることはありますか」についても、県・国の肯定回答を5～10ポイント上回っており、今後も本校の特色を生かした地域との連携を充実させたり、学級の朝の会などで時事的な話題を取り入れたりするなど、今後も引き続き工夫していく。

○●「家で、学校の宿題をしていますか」に対して、全員が「している」と回答している。一方で、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定回答は、県・国の肯定回答より20ポイント以上下回っている。自分の課題を見付けて進んで勉強する習慣が身に付いていない児童が見られるので、自主学习を奨励し、家庭との連携協力を図りながら、自分で計画を立てて勉強する習慣を身に付けさせる。

●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」では、県・国の肯定割合より10ポイント以上下回っている。学区外から登校している児童が多いということもあるが、地域社会の大切さやありがたさなどについて理解させ、地域社会の一員として自覚を高めていく。また、学年だよりなどで保護者の方にも啓発していく。

●「理科の勉強は好きですか」では肯定割合が高いが、「理科の勉強は大切だと思いますか」では県・国を下回る肯定割合になっている。「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」においてもやはり県・国の肯定割合を下回っており、授業での学習が生活と結びついていない児童が多いと考えられる。そこで、デジタル教材などを用いて身の回りの事象に関する映像を見せるなど指導の工夫をする。また、「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか」では、県・国を10ポイント以上下回る肯定割合で、課題の確認とまとめの場面で自ら考える時間を大切にすること、学習内容と実生活との関わりを意識した教科指導を心がける。

宇都宮市立清原北小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ねらいの提示と学習の振り返りを徹底した授業づくり	・日々の授業を大切に、ねらいの提示と振り返り活動を行っている。	・県・市の平均よりも高く、ねらいについては100%の児童が肯定的回答だった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
【子どもの学ぶ意欲・学習習慣】 ・既習事項を忘れてしまっている。	・スパイラルによる学習	・単元によって習熟度学習を取り入れる。レディネステストにおいて定着が十分でないときは、既習事項の復習を行う。
【教師の指導力】 ・記述式の問題の無回答が多い。複数の資料をもとに自分の考えを書くことが苦手な傾向にある。	・要点をまとめる活動	・中学年から要旨をまとめるなどの活用を意識して取り入れたり、時数制限や短い言葉で要点をまとめるなどの機会を作っていく。